

<「知るっば!久留米」 令和2年9月24日(木) 12:30~放送分>

久留米の救急救命 ～第4回～ ドクターカー

<ゲスト：久留米広域消防本部 救急防災課 主査 山下秀雄さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば!久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

9月は、『久留米の救急救命』をテーマに医療や救急救命にまつわるお話をお送りしています。

今回のゲストは、この方です。

ゲスト:山下秀雄さん (以下「山下」)

久留米広域消防本部、救急防災課の山下です。

よろしくお願いします。

坂本 第1週目から時間が空きましたが、山下さん再登場です。

9月の『久留米の救急救命』も最後になりますが、今日のテーマは久留米市の『ドクターカー』です。前は救急車のお話でしたが、今回はドクターカーということで、どちらも似ているような、ちょっと違うような…。

ドクターカーは、言葉どおりドクター、つまりお医者さんが乗っている救急車なのかなと思うのですが、ちょっと具体的に教えてください。

山下 久留米市ドクターカーは、平成27年から久留米市、久留米大学病院、久留米広域消防本部の3者で運行しています。

通常、ドクターカーは久留米大学病院に待機しており、指令があれば救急隊3人と医師と看護師の5人で出動します。

出動範囲は、久留米市全域で心肺停止の傷病者や心筋梗塞、大きな怪我をされた人など、119番通報時に生死に関わるような病気や怪我と判断した場合に出動します。

ドクターカーには医師が同乗しているため、現場に到着した時点ですぐに医療機関でしかできないような医師による処置が始められます。

坂本 なるほど、ドクターカーにはお医者さんが乗っているのだから、現場ですぐに処置が始められるから、救命率も上がるってことですね？

なんか救急病院の出前みたいな感じでですね。

そんなドクターカーの出動件数はどうなっていますか？

山下 昨年1年間の久留米市ドクターカーの出動件数は、529件です。

坂本 年間500件以上も出動しているんですね。

山下 救急隊のみで出動した場合と、ドクターカーが出動した場合を比較すると、ドクターカーが出動した方が、心肺停止傷病者の1カ月生存率が明らかに高い数字となっています。
医師が現場に出動することで、いち早く救命処置が実施されるため、生存率が高くなると考えています。

坂本 お医者さんが救急の現場に行くというのは、ドクターヘリもありますよね？
私、市役所勤めなんですけど、職場の窓から大学病院にドクターヘリが離着陸するところが見えるんですよ。
ドクターカーとドクターヘリの出動は、どのように分けられているのですか？

山下 ドクターヘリは、消防が運行しているものではなく、久留米大学病院高度救命救急センターを基地病院として、平成14年2月1日から福岡県によって運行されています。
久留米市ドクターカーの出動範囲は久留米市全域ですが、中心部から離れている場所などドクターカーが出動するよりもドクターヘリが出動したほうが早いと判断される場所は、ドクターヘリが出動することになります。
しかし、ドクターヘリは、雨天時は運行できません。
そのような場合は、久留米市全域にドクターカーが出動します。

坂本 雨の時、ドクターヘリは飛ばないんですね。
でも、ドクターカーがいるから久留米市はどこでも安心してことだと思えます。
救急車、ドクターカー、ドクターヘリ、そして救急隊員のみなさんのおかげで、私たちの生活、生命が守られている。
まさに、“医療のまち久留米”の強みと言えらると思えます。
今月は、久留米の救急救命について4週にわたってお話をうかがいました。
最後になりますが、久留米市広域消防本部の山下さんから、地元久留米のみなさんへメッセージをお願いします。

山下 初回の放送でお伝えしたとおり、救急出動件数は年々増加しています。
救急車の適正利用をお願いします。
ただし、救急車が必要と感じたときは、迷わず救急車を呼んでください。
救急車を呼ぶべきか悩む時は、#7119番に電話をすると相談することができます。
救急車を呼ぶか迷ったら、#7119番にダイヤルです。

坂本 #7119番ですね。
救急車を呼んだ方がいいかな？と迷われたら、ぜひ#7119番に電話をしてください。

今日も興味深いお話をどうもありがとうございました。

10月のテーマは、『城島瓦』でお送りします。

職人の匠の技についてのお話を聞けるとおもいますので、どうぞご期待ください。